

廃炉コミュニケーションに係る直近の取組と 今後の方向性について

平成 3 1 年 1 月 1 0 日

廃炉・汚染水対策チーム事務局



地域で積極的に活動している皆様

- 地域の声の共有
- 疑問や不安の共有
- 「場」の設定や既存の場の活用
- 施策等に対する提案



政府



NDF



東京電力

- 進捗状況の提供
- リアルタイムの情報提供
- 「場」の設定
- 提案された施策等の実現

廃炉



既存のオケージョンへの
組み込み

- ◆ 既存の集会や行事で「廃炉」をテーマとした情報提供等の場を構築



直接的な対話

実績
あり

- ◆ 車 座
(少人数の対話形式の意見交換会)



シンポジウム等の開催

実績
あり

- ◆ ハイロミライバー
(民間主催の「廃炉」に特化した対話形式のイベント)
- ◆ 福島第一廃炉国際フォーラム
(NDF主催の住民・専門家を交えたイベント)



広報コンテンツの波及

実績
あり

- ◆ パンフレットや動画コンテンツを不安や疑問に応える内容とするべく、事前に意見を聴取



行事等での
廃炉ブースの展開

- ◆ 人が集まるイベントや祭りで、廃炉に関するブース等を展示し、情報を提供



現地視察の企画

実績
あり

- ◆ 福島第一原子力発電所や周辺地域の復興状況の視察を実行

●第3回福島第一廃炉国際フォーラムの開催（NDF）

- 楡葉町・いわき市で8月にNDF主催で第3回福島第一廃炉国際フォーラムを開催。
- 特に、「地元の皆様と考える1F廃炉」がテーマのDay 1（@楡葉町）では、「話す」セッションで地域住民の方と双方向の対話を行うとともに、「問う」セッションでは廃炉関係者（エネ庁・NDF・東電）が地元登壇者からの疑問の声に直接回答。

⇒ **引き続き、大規模な地元コミュニケーションの場として、NDFが主体となり取り組んでいく。来年度は富岡町で開催することとし、若い世代など新たな参加者の拡大にも積極的に取り組む。**



「話す」セッション



「問う」セッション

●ふたばワールド2018inなみえへの廃炉関連ブース出展

- 9月29日に開催された「ふたばワールド2018 in なみえ」において、「資源エネルギー庁」名で、廃炉ブースを出展
- 来場者の方と直接対話を行うための媒体として、福島第一原発のジオラマ展示・実際の内部調査を行ったロボットの操作体験に加え、廃炉・汚染水対策の現状についてのパネル展示を実施し、おおよそ200名程度が来場。

⇒ **廃炉に興味を持ってもらう貴重な機会ととらえ、来年度も取り組みを継続したい。その他のイベント等への参加についても、地元関係者の皆様と相談しながら進めていく。**



●住民説明会（浪江町・南相馬市）の実施

【これまでの取組】

- 浪江町（4月行政区域長、10月）・南相馬市（2月・10月）において、地元住民の皆様の廃炉に関する理解を深めていただくため住民説明会を実施。
- 浪江町では、参加した住民の方々に各テーブルに分かれていただき、**それぞれの住民の方の関心や疑問、不安などに廃炉関係者（エネ庁・NDF・東電）がその場で直接お答えする座談会形式で実施。**
- 南相馬市での住民説明会は、**廃炉関係者からの説明の後、会場からの質問にお答えする説明会形式で実施。**



【今後の方向性について】

- 浪江町での説明会後に実施したアンケートでは**ほとんどの方から「理解が深まった」と回答あり。**座談会形式は有効と考えられる。
- 一方で、合計4回で20名程度の参加。どのようにして住民の方々に来場いただくかが課題。

⇒ **今後も、地元自治体等の協力も得ながら、取組を拡充していきたい。**

⇒ **その際、開催方法については、上記の取組事例やそれぞれの市町村の個別の状況を踏まえ、丁寧に御相談させていただきたい。**

（例）開催形式、開催の範囲（住民、議会、自治体職員など）、広域的な取組など

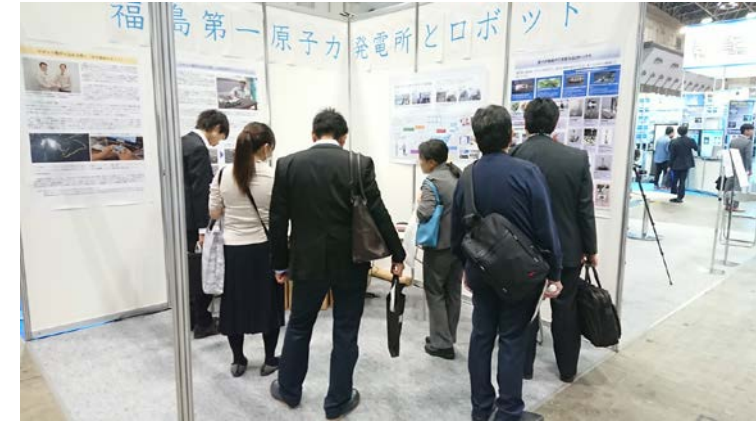


浪江町での説明会の様子

●WRS（World Robot Summit）への廃炉関連ブース出展

- 10月17～21日には東京ビッグサイトにて行われたWRS（World Robot Summit）にも、廃炉作業に使われるロボットの紹介を行うブースを出展。
- 推計300～400名程度が来場し、興味を持っていただいた来訪者とコミュニケーション。

⇒ 今後も、「ロボット」の切り口を活用するなど、様々な方の関心・興味に応じた「廃炉」情報の伝え方を広げていきたい。



●資源エネルギー庁スペシャルコンテンツへの特集記事掲載

- 資源エネルギー庁ホームページにある、「スペシャルコンテンツ」ページに廃炉・汚染水対策を含む福島復興関連の特集記事を掲載。
- 特に、ALPS処理水については、分かりやすく情報を伝えるという点で、反省すべき点があったことから、より一層丁寧な広報を行うため、シリーズで記事の配信を実施（1月10日現在で3本の記事を掲載）。

⇒ 今後も正確かつ分かりやすい情報発信を行うよう心掛ける。



●2019年度版コンテンツの作成

○廃炉の大切な話

- 前回同様、**製作段階から各市町村や住民の方々の御意見を伺った上で、なるべく反映させていただく方向で制作中。**
- 今年度は、**住民説明会等での活用を見据え、極力簡潔な表現・視覚的なわかりやすさを意識したグラフィック重視の構成とする作成方針。**
- 各市町村から、意見聴取の段階で御協力をいただいている。昨年同様、**可能な限りの全戸配布を含め、配布にも御協力をお願いしたい。**

○広報動画

- 昨年同様、**廃炉の進捗全体をお伝えする動画**を作成中。
- それに加え、YouTube等を通じて、多くの方々に興味を持っていただくべく、作業員の皆様の日常業務を紹介するような短編動画を制作中。



第16回福島評議会後の具体的な取組（海外向け）

英語版動画
(2018年度版)

●情報発信・説明 / 広報コンテンツ（動画・紹介記事）の制作・公開

- 昨年度に引き続いて英語版動画を作成。インターネット上の動画サイトで公開。
 - 当該動画については、平成30年9月にウィーンで開催された第62回IAEA総会（日本の展示ブースや日本政府主催レセプション）において上映。
 - 加えて、IAEAから福島第一原発の廃炉作業についてレビューを受けるため、11月に調査団（ミッション）を受入れ、サマリーレポートを受領。
 - 欧米やアジアの大使館関係者や経済界などを対象とした国際経済交流財団の英文機関紙に記事を掲載。
 - ALPS処理水については、在外公館ブリーフ（各国在京大使館への説明）を行うとともに、関心の高い国には、個別の国の状況等に応じて、積極的な情報発信や説明を実施。
 - 外務省とも協力し、海外における正しい現状理解の促進を目的とした、外国報道関係者の招聘・現状説明や、関係者による福島第一原発の視察を実施。
- ⇒ **引き続き、在外公館や海外プレスに向けたブリーフィングなども含めて、海外での理解促進に向けた働きかけを積極的に行っていく。**



第62回IAEA総会



展示ブース開会セレモニーの様子
(松山科学技術担当大臣挨拶)



日本政府主催レセプションの様子

IAEAレビューミッション



福島第一原発の現地視察の様子



ゲザリ調査団長から磯崎経産副大臣へ
報告書概要手交